

あ、おいしい。



水田農業経営確立対策の確実な推進を図ろう。
直播栽培等新技術の導入と地域性を活かした米づくりを進めよう！

平成12年度 稲作情報

会津版
第5号

平成12年7月25日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島県稲作情報編集会議
編集：福島県農業試験場会津支場

21世紀の米王国会津を目指して！会津産米の更なる向上を図ろう

1 力月予報（7月21日仙台管区气象台発表）

7月22日～7月28日：東南北部は、曇りや晴れの日が多いですが、大気の状態が不安定でにわか雨の所がある見込みです。平均気温は高い見込みです。

7月29日～8月4日：太平洋高気圧に覆われて、平年同様晴れの日が多いでしょう。平均気温は高いでしょう。

8月5日～8月18日：太平洋高気圧に覆われて、平年同様晴れの日が多いですが、低気圧や寒気の影響で天気のごずつく時期があるでしょう。平均気温は平年並の見込みです。

移植栽培の当面する技術対策のポイント

「出穂期が早い！夏バテさせない水・施肥管理とカメムシ、穂いもちの適期防除を！！」

1 生育状況

- (1) 試験場内の生育：暦日から見た草丈は平坦部、高冷地とも平年より長い、葉齢相当の草丈となった。茎数は平坦部のひとめばれは葉齢相当の茎数より少ないが他は並～多目である。葉色は、穂肥施用後の品種は葉齢相当の平年値に比し並～やや淡い。施用前の品種(コシヒカリ)は大きく低下(表1)。幼穂形成始期は平坦部、高冷地とも平年より4～5日早い。

- (2) 現地の生育：草丈は長目、茎数は並～やや少ない(生育ステージが平年より早い)。葉色が低下し、追肥が行われたほ場が多い。幼穂の形成は4日程度早い。葉いもちの発生は平坦部では少ないが、山沿いや山間部を中心に7月中旬以降、各地で発生が見られる。カメムシ類の生息密度は高目である。

2 今後の生育予想

試験場での出穂期は今後の気温が平年並であれば平坦部、山間部とも5日程度早まると予想され(表3)、また、平坦部の稈長は、平年並程度と予測される(表2)。現地の出穂期も、平年より早いと予想される。

3 当面の技術対策

- (1) 追肥 コシヒカリの穂肥は幼穂形成期の診断基準により行うが(稲作情報会津版第4号 表5)、出穂が早まり、高温登熟が予想されるため、草丈が基準よりやや長目でも、葉色が基準値まで低下した場合は10a当たり1.5kg以下の穂肥を施用し葉色を維持する。穂肥は遅くとも出穂期前10日(止め葉の展開期)までに行う。出穂期以降の実肥は食味低下の要因になるため高温下でも施用しない。穂肥施用時にはいもちの防除も実施する。幼穂形成期の草丈が、80cm以上のコシヒカリでは倒伏軽減剤の施用を検討する。
- (2) 水管理 根の健全化と固めた作土を維持するため、間断灌漑を基本とするが、高温が継続する場合は、用水が豊富であれば掛け流しにより、不足する地域では昼間の灌漑や水の入れ替えにより水・地温の低下に努め、併せて土壌の還元化を防止する。
- (3) 病虫害防除 本年はカメムシの生息密度高く、被害が心配される。薬剤防除は乳熟期とその1週間後の2回散布を基本とする。剤は有機リンとカーバメートの混合剤を使用し、地域全体で実施すると効果が高い。稲の止め葉展開後の草刈りは、カメムシを水田に追い込むので行わない。(防除の詳細は病虫害防除所発行の注意報3号 7月26日参照)
- 7月4半旬に会津全域で好適感染日が出現している。散布剤で穂いもちを防除する場合には、穂ばらみ末期、穂揃期の防除を基本とする。予防粒剤を施用したほ場でも発生が見られた場合には、散布剤による追加防除を行う。

湛水直播栽培の当面する技術対策のポイント

倒伏防止対策と適期の病害虫防除の徹底を！！

1 生育状況

5月10日播きひとめぼれの、7月10日の生育量は平成11年より大きい。予想される出穂期は4月26日播きのひとめぼれが8月3日、コシヒカリは8月10日、5月10日播きのひとめぼれは8月7日である。4月26日播きは、両品種とも作況試験(中苗・5月19日植)より2日、5月10日播きは6日程度の遅れと予想される。

現地の生育は、草丈が長く生育量は大きい。出穂期は播種時期で差はあるが4月下旬播種は移植並と予想。

2 当面の技術対策

- (1) 水管理 幼穂形成期前まで強い中干しを継続し、以降は間断灌漑を継続し支持力を維持し倒伏防止に努める。生育量が極端に大きい場合は、登熟期にも7～10日程度の中干しを行い倒伏を防止する。
- (2) 穂肥 穂肥施用は移植栽培に準じた診断基準で行う。移植栽培より倒伏しやすいので慎重に時期と量を判断する。ほ場が軟弱な場合や播種深度が浅く株が不安定な場合は施用しない。水管理と施肥管理で倒伏が防げないと判断される場合は、倒伏軽減剤の使用を検討する。
- (3) 病害虫 穂いもち防除、カメムシ防除は移植栽培に準じて行う。
生育が遅れたり、葉色が濃いほ場ではイネツトムシの早期発見、早期防除に努める。

具体的なデータ

表1 7月19日の生育状況(作況試験・中苗・5月19日植)

品 種 年次	会津支場(平坦地)				品 種 年次	冷 試(高冷地)			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
ひとめ 本年	76.7	657	12.0	35.5	ま い 本年	68.2	619	11.1	37.6
ぼ れ 前年	68.1	784	11.8	37.7	ひ め 前年	58.5	669	10.4	39.3
平 年	72.6	728	11.7	38.3	平 年	63.3	603	10.4	40.9
平年比・差	106	90	0.3	-2.8	平年比・差	108	103	0.7	-3.3
コシヒ 本年	81.0	591	12.1	30.4	初 星 本年	70.1	669	11.1	36.8
カ リ 前年	68.6	597	11.2	33.7	前 年	59.8	734	11.0	38.3
平 年	75.7	633	11.6	34.6	平 年	62.6	658	10.6	39.1
平年比・差	107	93	0.5	-4.2	平年比・差	112	102	0.5	-2.3

表2 稈長及びm²当り籾数の予測

品 種	稈長 (cm)	m ² 当り籾数 (×100)
ひとめぼれ	86	352
コシヒカリ	92	340
ササニシキ	85	438

作況試験の幼穂形成期期のデータから予測。

表3 幼穂形成始期と減数分裂期・出穂期の予想(月・日)

品 種	幼穂形成始期		減数分裂期	出穂期	
	本 年	平 年		本 年	平 年
会 初 星	7. 5	7.10	(7.14～7.19)	(7.29)	8. 2
津 ひとめぼれ	7. 8	7.13	(7.17～7.22)	(8. 1)	8. 6
支 コシヒカリ	7.15	7.20	(7.24～7.29)	(8. 8)	8.12
冷 まいひめ	7. 7	7.11	(7.16～7.21)	(7.31)	8. 5
初 星	7.11	7.16	(7.20～7.25)	(8. 4)	8.10
試 あきたこまち	7.11	-	(7.20～7.25)	(8. 4)	-

表4 BLASTAMによるいもち感染好適日

月・日	7.13	14	15	16	17	18	19	20
喜多方	-	-	-	-	-	-	-	-
西会津	-	-	-	-	-	-	-	-
猪苗代	-	-	-	-	-	-	-	-
金 山	-	-	-	-	-	-	-	-
若 松	-	-	-	-	-	-	-	-
只 見	-	-	-	-	-	-	-	-
南 郷	-	-	-	-	-	-	-	-
田 島	-	-	-	-	-	-	-	-

は好適感染日、 は準好適感染日
は感染可能日、 - は感染不適日

大豆・ソバ栽培の技術対策のポイント

(1)大豆

追 肥 コーティング尿素の追肥を行わなかった場合は、尿素、硫酸を用い、開花期～開花後10日頃までに行う。窒素成分で10a当り6kgを株元に施用する。葉上からの散布は葉やけをおこす。

病害虫 紫斑病の薬剤防除は開花後20日～40日頃に行う。マメシンクイガと同時防除を行うと効率的である。高温年はカメムシ類が多発するので注意する(防除の詳細は防除基準を参照)。

(2)ソバ

排水対策 ソバは湿害には極めて弱い。特に、転換畑では明渠による排水対策を万全に行う。

施 肥 ソバの10a当りの標準施肥量は窒素1.0～2.0kg、りん酸2.5～5.0kg、カリ2.5kgである。開発畑や火山灰土壌では石灰資材や燐酸資材も同時に投入する。